

伝説的バンド「ヒカシュー」のリーダー／ヴォーカルとして、また喉歌「ホーメイ」や口琴の紹介者・指導者としてユニークな活動を繰り広げているアーティスト・巻上公一と、日本語の歴史を研究するカタワラ、キャラクターを映し出す言語「役割語」を提唱する言語学者・金水敏が、人間の声の持つ可能性、言語とアートの関わりについて語り合います。人間の声を言語的意味から解放することはどこまで可能なのか？「宇宙人語」とは何か？声は人間の何を映し出すのか？奇しくも同じ年ながら、まったく異なる人生を歩んできた二人の、声・言語・アート・コミュニケーションを巡るたった一度のトークセッション。巻上公一氏によるヴォイスパフォーマンスのワークショップあり！

声を語る／言語を聴く

ヴォイスパーフォーマーと言語学者の対話

巻上公一  × 金水敏 

Koichi Makigami 歌手

Satoshi Kinsui 言語学者、大阪大学大学院文学研究科教授

2013年11月23日 [土]

14:00~16:00(受付13:30) 入場無料(定員80名・要事前申込)

会場：大阪大学会館1階 大阪大学21世紀懐徳堂スタジオ

vol.1

UNLIMITED:

科学の新たな地平をひらく  大阪大学
21世紀
懐徳堂

主催・お問合せ＝大阪大学21世紀懐徳堂 大阪府豊中市待兼山町1-13 大阪大学会館1階 TEL 06-6850-6443 <http://21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp>

vol.2

演劇・リアリティの地平線

演出家とコンピュータ科学者の対話

ウォーリー木下  × 金谷一朗 

Worry Kinoshita 演出家

Ichiroh Kanaya コンピュータ科学者、大阪大学大学院工学研究科准教授

2013年12月7日 [土]

14:00~15:30(受付13:30) 入場無料(定員80名・要事前申込)

会場：大阪大学会館1階 大阪大学21世紀懐徳堂スタジオ

2000年頃から演劇の装置は100年振りぐらいの大改革を迎えています。世界的注目を集めるパフォーマンスグループ The Original Tempo 主宰のウォーリー木下と、コンピュータ科学を駆使したメディアアート作品やエジプトの世界遺産調査で知られる金谷一朗が、「演劇・リアリティ」をテーマに語り合います。視覚トリックを使いつつも演劇の本質へと切り込む木下。同じく視覚トリックを使ってリアリティとは何かを追い続ける金谷。演出家とコンピュータ科学者は、演劇とエンジニアリング(装置)におけるリアリティをいかに思考するのか。TED×Kyoto 2013でもタグを組み、世界的イベントを成功へと導いた異色の二人が、「演劇・リアリティの地平線」の向こう側、次の100年、200年、、、1000年の間に何が起こるのかトークを繰り広げます。

UNLIMITED vol.1 声を語る／言語を聴く—ヴォイスパーフォーマーと言語学者の対話



巻上公一 Koichi Makigami (歌手)

1956年熱海市生まれ。超歌唱家、即興演奏家、プロデューサー、作詞家、作曲家。非言語的声帯術を駆使し、歌手に留まらないヴォイスパーフォーマーとして国際的に高い評価を得ている。異なる2つの音声と同時に発するトゥバ共和国やモンゴル国などの伝統的な歌唱法ホーメイの研究者・歌手としても知られている。1979年、「20世紀の終りに」でレコード・デビュー以来、今なお特異な活動を続けるノンジャンル音楽ユニット「ヒカシュー」のリーダー。日本トゥバ・ホーメイ協会代表、日本口琴協会会員、人体構造運動力学「操体法」インストラクター。1995年に現代音楽や前衛音楽を扱うニューヨークのレコード会社「TZADIK」から出したソロアルバム「KUCHINOHA」をきっかけに、欧米のコンテンポラリーミュージックのフェスティバルに招聘されるようになる。表し難いことを千変万化の声やからだの音に託し、歌唱の可能性の拡張をめざす「超歌唱法」の実践・普及活動として、ホーメイを教える催しやヴォイスパフォーマンスのワークショップ、「JAZZ ART せんがわ」のプロデュースなどに取り組んでいる。ニューヨークからトゥバ共和国まで、世界を舞台に独自のスタイルで活動を続けている。

<http://www.makigami.com/>



金水敏 Satoshi Kinsui (言語学者、大阪大学大学院文学研究科教授)

1956年生。東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了。博士(文学)。大阪女子大学助教授、神戸大学文学部助教授等を経て、2000年4月より現職。専門は日本語の歴史的研究および役割語研究。主な著書に「ヴァーチャル日本語 役割語の謎」(岩波書店、2003年)、「日本語存在表現の歴史」(ひつじ書房、2006年。新村出賞受賞)。役割語とは、老人語「ワシが知っておるんじゃよ」、お嬢様語「私が存じておりますわ」など、現実には必ずしも存在しないがフィクションを通じて誰でも知っている言語のヴァリエーションを指し示す概念。「ヴァーチャル日本語 役割語の謎」を通じて一般に知られるようになり、研究者のみならず、作家、アニメ制作者、マンガ家等も注目している。学生時代はオーケストラで指揮・フルートを担当、能楽、歌舞伎、文楽等の邦楽に興味を持つ一方でテクノ、プログレ、ワールドミュージックにもはまった。

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/~kinsui/>

「UNLIMITED vol.1」終了後、17:00より巻上公一 (vocal, theremin)

/"FOOD": Christian Fennesz (guitar), Iain Ballamy (saxophones)、

Thomas Strønen (drums, electronics) によるライブ開催決定! 会場: 大阪大学会館アセン

ブリーホール/主催: 大阪大学文学研究科音楽学研究室

詳細は10月10日[木]より、大阪大学文学研究科音楽学研究室HP (<http://www.let.osaka-u.ac.jp/ongaku/>) にて公開します。

UNLIMITED: 科学の新たな地平をひらく

いま、「科学の限界」が問われています。表現者の独創的な想像力と科学者のあくなき探求心によって繰り広げられる自由な (UNLIMITED) 対話が、科学の限界への突破口となる新たな英知を生み出すかもしれません。このイベントは、異分野で活躍する表現者と科学者が導き出す萌芽的知見を社会と共有しながら、科学の新たな地平を切り拓いていこうとする試みです。

お申込み方法

メールまたはFAXにてお申込みください。メール件名もしくはFAX送信用紙に「UNLIMITED」と記載の上、①参加希望の対談名(両方参加可)、②ご本人のお名前(フリガナ)、③年齢、④住所(郵便番号から)、⑤電話番号またはメールアドレスをお知らせください。入場票(ハガキ)を郵送しますので、当日入場時にご提出ください。両方の対談に参加される方へは各対談ごとに入場票を郵送します。

○各対談につき定員80名に達し次第、締切とさせていただきます。

○未就学児童はご入場いただけません。

お申込み期間

vol.1「声を語る／言語を聴く—ヴォイスパーフォーマーと言語学者の対話」

2013年10月3日[木]～11月19日[火] 17:00

vol.2「演劇・リアリティの地平線／演出家とコンピュータ科学者の対話」

2013年10月3日[木]～12月2日[月] 17:00

お申込み先

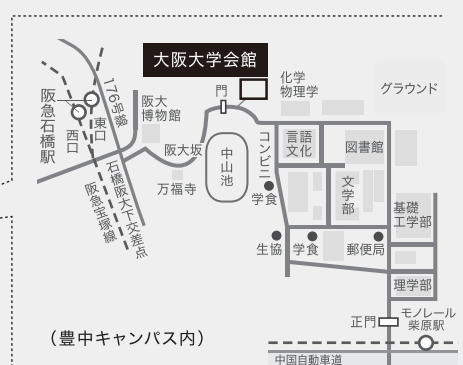
kagaku@21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp

FAX 06-6850-6449



大阪大学会館
大阪府豊中市待兼山町1-13

- 阪急石橋駅(急行停車します)より徒歩15分
- 大阪モノレール柴原駅より徒歩20分
- できる限り公共交通機関をご利用ください。



ウォーリー木下 Worry Kinoshita (演出家、劇作家、フェスティバルディレクター)

1971年東京都出身。1993年、神戸大学在学中に劇団☆世界一団(現sunday)を結成。全作品の作・演出を務める。特に役者の身体性を重視した演出が特徴。2002年、パフォーマンスグループThe Original Tempoを設立し、演出を行う。台詞を使わず、プロジェクションマッピングや日常音の拡張、視覚的なトリックを取り入れて演劇・映像・音楽・ダンスを融合させた作品「喋るな、遊べ!!」が国内外で注目を集める。10カ国以上の国際フェスティバルに招聘され、エジンバラ演劇祭では五つ星を獲得。韓国およびスロヴェニアでの国際共同製作も行う。劇団外でも数多くのプロデュース公演を手がけ、演劇祭のチーフプロデューサーやワークショップ講師等も精力的に行う。2011～2012年にかけて、大阪市立芸術創造館、インディペンデントシアターと共同で演劇学校「CAMP!」を開校し、総合ディレクターを務める。2011年、「PLAY PARK～日本短編舞台フェス～」を東京で立ち上げる。2013年の主な活動に、二期会オペラ「愛の妙薬」演出、観客体験型演劇「YOUPLAY」製作、新生・東京パフォーマンスドールの脚本演出、「多摩1キロフェス」ディレクターなど。 <http://www.originaltempo.com/> http://blog.goo.ne.jp/worry_2005



金谷一朗 Ichiroh Kanaya (コンピュータ科学者、大阪大学大学院工学研究科准教授)

1973年生。大阪大学にて教育・研究に携わる他、京都嵯峨芸術大学非常勤講師、NPO法人こどもアート理事、Pineapple Design代表、TEDxKyotoプロジェクトディレクターを務める。関西大学工学部卒業、国立奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士課程修了。コンピュータグラフィックスの研究を中心に、デザイン、メディアアートを手がけ、また世界遺産の保護とデジタル化のためにカンボジア、エジプトなどを渡り歩く。工学博士。主な著書に『感じる・楽しむ・創り出す 感性情報学』(工作舎、2004年。分担執筆)。アート作品「The Mirror of Transfiguration」(2009年)を国立民族学博物館、カナダ大使館にて展示。「ポリフォニック・ジャンプ!」(2011年。共同制作)は神戸ビエンナーレ2011にて奨励賞受賞。主な講演として、JPDUオープンセミナー「科学が切り開くデザインの感性」(2012年)他多数。 <http://www.pineapple.cc/>



UNLIMITED vol.2 演劇・リアリティの地平線／演出家とコンピュータ科学者の対話